

件名	第2回地域別懇談会【相模が丘地域】	頁	1/12
日時	平成22年3月24日(水) 19:00~21:00	場所	相模が丘コミュニティセンター

1. 開会【企画財政部次長による開会】

省略(1. 開会については、別ファイルにまとめています)

2. あいさつ【市長によるあいさつ】

省略(2. 市長あいさつについては、別ファイルにまとめています)

3. 基本構想素案及び都市マスタープラン改定計画案の説明

(1) 基本構想素案の概要説明

省略(3. 基本構想素案及び都市マスタープラン改定計画案の説明については、別ファイルにまとめています)

(2) 都市計画マスタープラン改定計画案の説明

省略(3. 基本構想素案及び都市マスタープラン改定計画案の説明については、別ファイルにまとめています)

4. 質疑

【司会】

ありがとうございました。説明が終わりましたのでこれより質疑に入りたいと思います。本来であれば本日ご出席の方々1人1人にご意見をいただきたいところですが、会場の都合上あの時計で8時半前後を目安に質疑をとり、最後に皆様方からいただいたご意見をもとに、遠藤座間市長より総括的なまとめを行い、本懇談会を閉じたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。それでは、ご質問の方につきましては挙手をお願いしまして、マイクをお持ちしますので、ご発言のほどよろしくお願いしたいと思います。

【質問者】

1丁目の〇〇でございます。素朴な質問2点ほどお聞きしたいのですが、この資料大変文章が硬いです。こういう文章にならざるを得ないことは理解できますが、

まず1点が、座間市の姿という部分、2ページ目にある人口の件ですが、今までは増えてきたのに、これから減少する予測がされていますが、この具体策を何かお考えになっているか。

もう1点は辰街道という長い商店街がありますが、駅のまわりが大変寂れている。前回1回目の懇談会の際にどなたか相当厳しいこと、お願いを言っておられたことを記憶しておりますが、特にこの辰街道商店街を活性化するための具体策が載っていません。特に施策の44で、

件名	第2回地域別懇談会【相模が丘地域】	頁	2/12
日時	平成22年3月24日(水) 19:00~21:00	場所	相模が丘コミュニティセンター

目指す姿ということで、「商業では、特産品などのブランド化」と示されていますが、なかなかこのブランドがあっても商品化されていない、あるいは商品化されても周辺の人々の大半が知らない、という状況で、これについても考えてもらえると助かります。

とても素朴な意見ですが、よろしく願いいたします。

【市役所】

企画財政部長の宮代と申します、よろしく願いいたします。私のほうからは人口の関係でお尋ねがありましたので、回答いたします。

今回、皆さんへお示しをした人口の推移につきましては、ご覧になっていただくとわかるように、平成22年をピークに減少傾向となっています。人口推計についてですが、ご案内のとおり座間市では土地利用の約92%が都市的利用をされてきている現状がございます。従いまして、いわゆる政策的な人口誘導がこの中には含まれておりません。あくまでも先ほど説明しましたように、高齢人口が増えて、逆に生産年齢人口が減っているという現状です。これについては、特に最近4ヶ月程度の状況について人口の増加の関係で見ますと、自然増加、出生と死亡という関係でございますが、残念ながら出生のほうが死亡の方より少ないという状況に変化しております。そのような状況も含めてこのような推計をしております。従いまして、当然ながら政策誘導によって人口が増えれば非常にありがたいことだと思いますし、今後の計画の中で具体的な政策を計画しており、その計画によっては増になる可能性もございますが、この表1については、現状での推計としてご理解いただきたいと思います。

【市役所】

環境経済部長の本多です。商店街の活性化についてご質問いただきました。商店街について、まずは、地域に根ざした商店街づくりの促進ということを目的としております。各個店の魅力ある個店を育成することによって、地域に根ざした商店街ができるということで、そのような取り組み方針を計画の中に示しておりますので、そのような方向でまいりたいと思っております。

【司会】

ご質問のある方いらっしゃいましたら挙手をお願いします。

【質問者】

相模が丘の〇〇です。今色々説明がありましたけども、全てが総花的に羅列してあって、どれ見ても良い事ばかり書いてあり、その中で医療的なことだけでも検証してみたところ。前回の10年計画で3章に医療体制の充実というふうに色々書いてありながら、先日いただいた座間のベンチマークという資料によると、医療関係は800弱の市町村の数の中で、だいたい600番700番、医者数もそうだし、診療所の数もそう。そういう状況であるため、いくら立派に書かれていても、実質は日本全国の市町村の800弱の中のだいたい600番から700番

件名	第2回地域別懇談会【相模が丘地域】	頁	3/12
日時	平成22年3月24日(水) 19:00~21:00	場所	相模が丘コミュニティセンター

が大半を占めている。そのようなことで、羅列的に総花的に言われても、何に重心を置こうとしているのか全く見えない。できるならば、次期10年は、老人の介護対策、少子化対策、先ほど言った商店街や企業誘致等の経済対策はどうしても外せないと思います。それで、財政がおそらく15%ぐらい減ずるだろうと思う。全ての予算を15%減ずるという格好になりますが、老人介護や少子化、商店街や企業誘致といったところには今の予算をキープ、及び15%アップというような財政的裏づけをつけなければ、絶対に生き延びられないと思います。

そして、今日の説明の中でも「◎のものは財政的に保持します、△のものは現状維持、×のものは現状よりか減らさざるを得ません」のようにはっきり言っていただかなければ。どれも否定的なことずらずらではなく、生き延びるにはここに重点を置いて、という行政をやっていたいただかなければ、座間市の先はないのではないかと心配をしまして一言申し上げました。

【市役所】(宮代企画財政部長)

ご意見大変ありがとうございます。最後にありました財政的な裏づけ、本当にそのとおりだと思います。私どもも今回の総合計画につきましては、先ほど言いましたようにどんなに立派な計画をつくってもそれに伴う財源がなければ何にもならない、何もできないと思います。私どもが今考えておりますのは、本日はお示しすることができませんが、先ほど概要版の1ページ、枠組みのところで、今回の基本構想についてご説明いたしました。この下にある実施計画、要するに具体的な事業の進め方という計画がございます。これについて、構想をつくったあとに私どもで策定に向けてまいります。今心配いただいた財源的な裏づけにつきましては、この実施計画の中にしっかりとイメージしたいと思っておりますし、これも一定の時期をもって皆さんのほうに明らかにしたいと思っております。

【司会】

ありがとうございました。それでは、次の方のご質問受けたいと思います。挙手お願いいたします。

【質問者】

3丁目の〇〇でございます。本日初めて基本構想見させていただいて、構想段階としてはどうしても網羅的にならなければならないし、その中に時代背景の中でまちづくりの基本的役割分担というところで、時代の流れをきちんと反映しているのかと思っております。先ほどお話しがありましたように、この種のものというのは目標がはっきりしない。プランがあって、ドゥがあって、シーがあって、チェックがあるという段階で、プランも構想ですから大きく広がっている部分でございますから、これからの各精密レベルに落としこまれていくのかと思っておりますが、言葉が非常に重い、美しいというのですかね、そのため理解しづらくなっています。そのため、もう少し具体的に踏み込んだ例みたいなものがないかと思っております。

例えば大阪に池田市という場所があります。そこでは市民税の1%について、市民が参加して使い道をきめる。例えば、そのような方向性の中である種の目標を掲げて市民が参加するこ

件名	第2回地域別懇談会【相模が丘地域】	頁	4/12
日時	平成22年3月24日(水) 19:00~21:00	場所	相模が丘コミュニティセンター

とで、その実が達成される。そのようなことを座間市に置き換えて、座間市だったら何ができるのかという視点で、切り口を求めて具体性のある例を出していただくと理解できるかと思います。言葉が網羅的でやわらかすぎています。先ほど総花的とおっしゃって、これは総花的にならなくてはならないものなので、その点は構いませんが、ここに重点を置くというところについては、具体的な切り口と我々呼んでおりますが、ぜひ加えていただけたらありがたいなと思います。

それは、福祉に関してもそうですし、住民参加もそうだと思います。それから目標といえば、日本経済新聞社が2年に1回、行政ランキング調査を行っています。このあたりでは確か厚木、大和、秦野が50位のランキングに入っています。市民はどういうランキングを見るかというところ、そういうランク、例えば座間市なら行政福祉で全国の行政単位の50位内にランクされたということだと、これだけ努力すれば我々は日本全国の中で際立った個性あるまちとしてかたちがつくれるのか、というような評価です。ですから、何らかのかたち、どこかの時点で個性的な評価のできる目標を持っていただけたらと思います。ちなみに、日本経済新聞の2008年の記事を、私はずっと大切にしております。この種の指標の中で座間市という言葉が一言で、非常に市民として励みになると感じております。ですから、プラン・ドゥ・シー・チェックの中で1つの項目として、その種の目標性をぜひ共有して持てればよいなと思います。これは感想でございます。ですから、その点ではぜひ際立った戦術をぜひ策定していただきたいをお願いを申し上げます。

【市役所】

都市部長の和田と申します、どうぞよろしくお願ひいたします。〇〇さんのほうから例えばということで、実際にどんなものをやるか、重点的なものを見せてほしい、というようなお話だと思いました。ここで今回お示ししておりますのは基本構想ということで、総花的に、全体10年後にこういうかたちのまちにしたい、ということで載せております。そして、その後に実施計画、これは予算的な裏打ちを持ってできるもの、できないものをその中でしっかり決めていく話となります。そして、1ページにも枠組みの中の③番で書いている戦略プロジェクト、重点的にということであれば、この戦略プロジェクトが該当するかと思っております。その中で、例えばこの相模が丘地区ですと、現在「桜道の会」さん、一生懸命、桜並木の再生計画ご尽力いただいております。まずそれには大変感謝いたしております。この関係、まず、地元の皆さん一生懸命になっていただいて計画つくっていただいております。行政はしっかりついてこいというようなかたちで、今しっかり動かれておられまして、私どもも一生懸命ついていきたい、その中で地元の皆さんが一生懸命やっている中で、しっかりついていく中で行政として何ができるかというような投げかけをされているところでして、この戦略プロジェクトの中に桜並木仲よし小道の再生計画を、4年間の中でなんとか仕上げたいということで、現在載せる段取りで準備をしております。この戦略プロジェクトにつきましても、4年間の中で目に見えるもの、重点的なものということでの選び出し、ハード、ソフト色々ございますが、中でもこの地域こそ、というものがあれば、しっかり載せた中で全体をつくっていききたいと、今、考え

件名	第2回地域別懇談会【相模が丘地域】	頁	5/12
日時	平成22年3月24日(水) 19:00~21:00	場所	相模が丘コミュニティセンター

ているところですので、ご理解賜りたいと思います。

【市役所】(小俣副市長)

ありがとうございました。少し補足をさせていただきたいと思います。まず池田市のことで、私もお聞きしたことがあります。市長とお話したこともありますので、市長からまとめて最後のところで一言お話いたします。

それから最初の方、文章が硬いというお話いただきました。文章の書き方についてもよく勉強させていただいて、言い回しなどについては神経を使っていきたいということで、今後またご意見いただければありがたいと思っております。

それから、先ほどの説明の1つのポイントかと思いますが、基本構想のお話しを今日はさせていただきます。実施計画のお話しは討議いたしておりません。この実施計画というのは、どこの場所をどのように、あるいは教育の関係についてはこのように持っていきたい、市道何号線は今後このように整備していきたい、このようなものが、皆さんが一番関心のあるであろう実施計画となります。ですから、その基になる構想をつくっていく。ですから確かに総花的と言いましょうか、行政ですから、全ての福祉から何から全部網羅しないといけません。

確かに、前の方おっしゃっていただきますけども、重点目標を考えるということもございました。この資料で各項目、グリーンの太陽のマークがついていて、グリーンでマーカーしてある項目がそれぞれあったと思いますが、そのところが一生懸命努力していけばこういうまちになる、という目標であり、確かにきれいごとと言えきれいだであるかと。

人口にしても、先ほど申し上げましたように、黙っているとこのとおり減少してしまう。亡くなる方と生まれる方の比率とか。ただ、例えば商店の活性化のお話しがありましたし、そして工業の有力工場を誘致するなど座間市内に色々と投資していただく、そのようになれば雇用に結び付いていくでしょうし、雇用によって人口も増えていく、そのような現象が現れることも考えられるわけです。

ですから、この目標をきちっと定め、これに加えて努力というものをしていけば、色んな面で活気のある、そして、いくつかのテーマ(市民生活像)に近づいていくのではないかと思っております。そして、過去の件についてはきちっと検証し、評価していくという作業も必要だと思っております。そのようなことから、基本的なことを今日は定めさせていただき、今いくつかありがたいお話しをいただきましたから、ぜひ参考にさせていただいて、これを煮詰めていきたいと思っております。よろしく願います。

【質問者】

5丁目の〇〇と申します。定刻にもうすでになろうと、8時半ぐらいを予定しておるということですが、これだけの大きなテーマをこんなわずかな時間で相模が丘の地域の皆さんの話を聞こうとは。今まで座間市に40数年お世話になっていますが、こうした会があまり開かれた記憶がありません。遠藤市長さんになってから、私今日で2度目の出席ですが、こうした機会をもっと早く持つべきではなかったかと。特に、今日は地域別の懇談会ですし、座間市で6箇

件名	第2回地域別懇談会【相模が丘地域】	頁	6/12
日時	平成22年3月24日(水)19:00~21:00	場所	相模が丘コミュニティセンター

所実施されています。大変これいい企画だと思います。素晴らしい企画だとは思っています。しかし、相模が丘については少し遅すぎました。緑もなければ公園1つないと前も申し上げましたが、そのような状況の中で2万人くらいの人口がこの狭い地域にいます。その中で、今の相模が丘の状況で、今日出席されている方は前回に比べたら3倍ぐらいになっています。前回はわずか10数人です。行政の皆さんのほうが多くいらっしゃいました。なぜこんなに相模が丘の皆さんは自分の住むところに関心を持たないのかと。僕は持たなかったのではないと思います。色々思っていたと思います。だけど、今こうやってお話を聞いていますと、人口の推移も減少となっています、少子化だから減少する、それは自然の流れで言えばそうです。しかしお隣の相模原はどうでしょう。人口どんどん増えていっています。海老名市もそうなるのではないのでしょうか。やはり人口が増えるような魅力あるまちづくりを行政が目指していれば、もっと増えるのではないのでしょうか。視点がちょっと違うと思っています。

特に相模が丘は平坦な土地ですから、これから少子高齢化と言いますが、年寄りにとっては大変住み良い場所です。病院も比較的沢山あって恵まれていると思います。相模原の分も含めてですが。こんな良い場所なのになぜそんな状況にあるのか、40年間お世話になって非常にそれが悔しい。予算の重点配分をして、この40年間に相模が丘から、前に申し上げましたが、税金が上がってはいはずです。その予算の配分が、相模が丘にいかほどされただろうか。私はそのことで申し上げました。声を出さなければ、それが現実のものになってこないというこの現実を私たちは反省しています。

相模銀座商店街の中核に今B街区の再開発の杭がうたれて、汚い建物がなくなってきれいになろうとしています。これがどういうふうに変わっていくのか、非常に興味を持っておりますけれども、私どものC街区、手嶋産婦人科と申し上げれば今日出席の皆さんおわかりですよ。C街区については縮小方向にある。なぜですか。計画どおりになぜいけないのでしょうか。手嶋産婦人科が、デベロッパーが買い上げなかったからできないのでしょうか。私は市長さんをはじめ遠藤市長さんの前、星野さんのとき、なぜ市長さんをはじめ議会の皆さん方も職員の皆様方も、補助金を出す事業をやっているわけですから、それにふさわしい、もう少し関心を持って議会で取り上げたり、現地を見学に来たり、進行状況を見たり、「どうだお前たち、この地域はよくなるぞ」という励ましもいただいたことは1回もありません。こんなことで座間市の借地の商店街、相模が丘の入口ですよ。ここがよくなるよう期待している人が大半でした。しかし、風俗街だから皆さんがそれを嫌って出ていく、そういうことも結構ありました。しかし、風俗街を一掃しようという地権者の気持ちと行政の呼びかけとあいまって、今それが実現しようとしています。しかし、これは警察にも力を借りなきゃいけないかもしれない、風俗街がちっともなくならない。なぜ開発してよくするのに、風俗街はなくならないのでしょうか。皆さんおっしゃっています、嫌な商店街と。その嫌な商店街に40年いましたけれども、私たちは良くしようとしてどれほど警察にも出向いたかわかりません。行政にもお願いしたはずですが、現実は今この状況です。

私は、都市計画で立派な相模が丘の玄関口がきれいになって、嫌なものがなくなれば資産価値だって上がります、相模が丘の皆さんは。私どものところは商店街だから、それなりの価値

件名	第2回地域別懇談会【相模が丘地域】	頁	7/12
日時	平成22年3月24日(水) 19:00~21:00	場所	相模が丘コミュニティセンター

がある土地だと思っていましたし、それなりのお金を出して買いました、苦しみながら。しかし、今、路線価が下がっています。それは全国的にとったら仕方がないです。しかし、商業地域が住宅化したら、自分の土地を仮に売るとした場合買ったときよりはるかに安い値段で売らざるを得ません。いい商店街になって本当によそからも買い物にくる、相模原の線路渡ってうちにくる、東林間、湘南からもくるという相模が丘の地域になれば、本当におっしゃるように活性化されれば商業界が、それはまた土地の値段も上がってきます。税という面で座間市に貢献できるのではないですか。住宅化したら住民税は入りますが、それだけでは十分なはずはないですから、もう少し活性化するようにしていただきたい。

我々のこの開発のトップには、今日和田さんいらっしゃっていて、よくご存知ですけど、座長がなんと言いました、この推進をするにあたって。覚えておると思いますが、私どもの開発の勉強会のトップはこう言いましたよね。「相模銀座に電車に乗ってでも来たい、来てみたい、居酒屋のようなもの、屋台村を作って、相模銀座に、小田急相模原に電車に乗ってでも来てみたい、そんな商業の活性化をする街区にしようじゃないか」と。こうぶちあけました。現実はどうですか。50店舗あった店舗数がわずか15店舗ぐらいしかなくなります。20もあればいいほうですよ。

ですから、これはもう今さら何を申し上げても、間に合わないことですが、どうか行政の皆様方にも本当に色々な意味で、こんな文句ばかり言うようで大変心苦しいし、大変失礼だと思います。でも40年もいて、道路に草の生えている、そんな道路のときからずっと、たいした納税者じゃないけど、一生懸命税金を払いました。遅れながらも税金払ってきました。だけでもまだこの状態かと思うと、寂しい思いもします。

大変不躰なこと申し上げましたが、たくさんお話ししたいこともあります。自治会のこともありますが、そのことは後でまた機会をみて、ということでこのへんで終わらせていただきます。

どうかひとつ相模が丘を行政も忘れないでいただきたい。この地域もよそ者の集まりかもしれないけれど、相模が丘というところは座間にとっても必要なところですよ。どうか相模が丘に力を貸していただきたいと思います。

【司会】

ご意見いただいたなかで最後に今までのご意見に対しまして、遠藤座間市長より総括的なまとめをお願いしたいと思いますのでよろしくお願いします。

【質問者】

今のことについて感じられたコメントをお願いしたい。

5. 市長による総括

【市長】

それも含めてお話いたします。

件名	第2回地域別懇談会【相模が丘地域】	頁	8/12
日時	平成22年3月24日(水) 19:00~21:00	場所	相模が丘コミュニティセンター

最後に〇〇さんのほうから大変厳しいご指摘であり、またごもつともなご指摘を頂戴したところでごさいます、まず真摯に受け止めさせていただきたいと思います。私も昭和47年頃からこちらへ戻った身ですから、その当時の相模が丘の地域がどういうところだったかも存じてあげております。ちょうどイトーヨーカドーの店ができてホリ製菓が掘っ立て小屋であった当時ですよね。当時の富士銀行の前に今のラーメン屋さんの前のさがみ銀座入口のところも信号もなく、東海相模のところも信号がなく、今の四国屋さんの辺りには梅林がありましたよね。そんな頃のこととも思い出しながら今伺っていました。

これは私常々、都市計画という部分も当然総合計画の中に入っていますから、非常に大きな責任も感じますし、この昭和20年代以降30年代からこのかた、私ども座間市も含めて日本全体に大きな流れとしてきた高度経済成長、それに伴う都市化、特にこの座間市を含めた県央地域というのは昭和30年代後半から40年代50年代にかけて、産業の誘致の関係、立地の関係、さらには横浜そして東京の衛星都市としての急速なスプロール化現象というものが進んできており、このときにどのような手が打てたのかということが、その後のまちづくりに大きな影響を及ぼしていることは、これは認めざるを得ません。

特に、ここ座間市の台上地域というのは、歴史的な経過を考えても座間市の当時の1万数千人いる、もともと住まわれていた皆さんからすれば、農業の面で言えば球根作物の作付け地、森林、さもなければ養蚕の桑畑、といったような土地利用であったわけで、高度成長の際に非常に手放しやすい土地であったこともひとつの要因となって、都市計画法の施行の前に開発が進んでしまいました。例えば、用途地域の指定についても、後付で行われてきたという歴史的な経過があります。それに対して正直申し上げて、私も今座間市の行政の長にいる立場で大変申し上げにくい話ですけれども、都市計画についても現状追認の後手後手になってきてしまったと。結果的に見ても、非常に残念であり悲劇的な結果があります。

そうした部分で、例えば道路の狭隘な状況とか、住宅が密集している状況とか、これが特に相模が丘の地域、さらには南のひばりが丘の地域といったところに、重点的に立地をしています。さらにその中間地帯の小松原、ひばりが丘の一带のあたりもそうですが、住工混在といった課題もあるわけでして、これについても、本当に現状ここまでの都市化が進展をしたなかで、どのようにそうした大きな課題を解決していくのかということは、大変困難な現状があると思います、正直認識しております。

さらに一方においては、先ほど来申し上げておりますように、今となれば日本は低成長経済となり、放っておけば人口が自然増というのはなく、亡くなっていく方が増え、生まれてくる子どもの数が減ってくると、これは全体のマクロの面でもそのような状況にあるわけで、私たちもいずれ介護が必要となる世代になりますが、そこから出てくる負担の部分を支える生産年齢人口がどんどん減ってきますし、さらにその後の世代も生まれてこない。非常に切羽詰った状況が目の前にある。

誰が考えてもどう考えても厳しい話ばかりで、将来にわたってばら色のまちじゃない、そういう状況の中でこの基本計画の素案、そんなこと言ったってできるわけない、そんなにかっこいいことばかり書くから行政はだめなんだ、こういうお叱りもあちらこちらで頂戴いたします。

件名	第2回地域別懇談会【相模が丘地域】	頁	9/12
日時	平成22年3月24日(水)19:00~21:00	場所	相模が丘コミュニティセンター

しかしながら、冒頭申し上げましたように、今回のこの総合計画策定の一連の作業、これそのものが先ほど〇〇さんからおっしゃっていただいたように、私もやはり市民のお1人お1人の声というものを伺った中で、そうした現状についての認識を職員ともども甘んじて受け止めさせていただきながら、それがきちんと計画に謳い込み、その中にまた現実的な解というものを見出すべく、具体的な施策としての実施計画、さらには重点的な取り組みとしての戦略のプロジェクトといったものにきちんと位置づけをして、取組んでいくことを宣言していく。これをやらなければ、市民の皆さんとともにつくっていくまちづくりはあり得ない、という考え方からひとつひとつの取組をさせていただいてまいりました。

こうした計画の策定というのはおそらく、過去の第三次まではなかったはずです。そういった面で限られた時間、そして膨大なボリュームの計画策定となりますので、なかなか細かいところまでお1人お1人からのご意見の拝聴ということも叶わない部分もあろうかと思えます。それについては、今日は基本構想ということで、皆さんから頂戴した部分でこうあってほしい、このまちはこうなってもらいたい、といったようなことについて、総花的にあるべき理想を基本計画の案の中に謳いこみ、何をもって実施をしていくのかという部分を実施計画という部分に位置づけをさせていただき、やっていく。このようなかたちを作らせていただくことでのご提言を申し上げます。

ということで、この基本構想についても5年を目途に、時代の変化が激しいですから時々見直しを行っていく所存でありますし、この中で具体についての実施計画については、とりあえず計画期間を4ヵ年とさせていただいて、その中でも2年ごとに現実との対比をしながら、先ほど〇〇さんおっしゃられたPDCAの部分、これについてきちっとサイクルをまわしながら取組について検証を踏まえ、変えるべき点については見直しを図り、取組みを進めていくことを考えております。

その中で、相模が丘は、先ほども冒頭お話し申し上げましたように新生桜道の会の関係で、唯一のシンボルゾーンであるこの桜並木、ある面では市民の大きな資産ですが、これを市民にとっての有効活用ということで大きなうねりを作っていただき、取組みをいただいています。

今回財政厳しいなかで、これについてはなんとしてもこれは大きなシンボルとして、今後も市民の皆さんとともにまちづくりを考えるというその一連の流れからすれば、皆さんの自発的な活動と維持により、こうしていきたい、こうあってもらいたいということを示していただいていることに対してお応えしていく。このキャッチボールというものが私は市民と行政との協働と思っておりますし、そのひとつのあり方として受け止めさせていただき、今回具体的に予算付けをさせていただきました。

先ほど池田市の例についてお話がございました。これは今日後ろに〇〇議員が来られていますがすけれども、昨年、全国の都市問題会議というところに私、〇〇議員の会派の皆さん共に熊本で行われた会議に参加し、そこで奇しくも池田市長が事例発表ということで、その取組について説明をされました。ちょうど、まちの規模は同じぐらいです。人口規模も変わりません。そして、大阪のベットタウンという部分の位置づけもかわりません。大きな工場がやはり立地したということがあったということも同様です。さらに驚くべきは、私ども今学区単位で11住区

件名	第2回地域別懇談会【相模が丘地域】	頁	10/12
日時	平成22年3月24日(水) 19:00~21:00	場所	相模が丘コミュニティセンター

ありますが、池田市も11地区です。そこで地区ごとに500万円という予算について陳情要望権ということを付与して、その地域ごとに課題解決のために必要なものについて地域で考えて、優先順位をつけて要望して下さい、こういうことをやられている。これはひとつのモデルとして非常に興味深く伺いました。当然、今回の桜道の話もそうですが、やはりそこに住んでいらっしゃる市民の皆さんが、一番地域の課題、こうあるべきだというものについて一番認識をいただいているわけですし、その皆さんの合意形成の中で優先順位を決められて、一つ一つ投資をしていく。これをやはり今後の我々の地域の行政のあり方として、ひとつの大きな示唆をいただいたという思いがあります。

と言いますのは、私ども行政の立場でそのようなお話しを承れば、この総花的になった総合計画の話ではないですが、やはり皆さんこれが欲しい、あれが欲しいとたくさん出てきます。それ全部やろうとするとこれは絶対できない話です。ただ、それについてそれぞれの地域の皆さんが、また市民全体が、何を優先してやろうかということについて合意形成ができれば、当然それに従って順を追ってやっていくことができます。これからは皆さんの中で納得していただいて取組の優先順位を決める。そして我慢していただくものについては次に送っていく。こういったようなことでの納得が、これなくしてなかなか成し得ないと思っている。そういった部分での大きなヒントとシンボルが、この桜並木の再生への取組だと私は感じております。

ということで、今後の総合計画の実施に向けては、まず今日お示ししたのは総花的な部分でございます。これは、そのようにご理解いただき、市民全体から出ている要望、こうあってほしいという意見を受け止め、策定させていただくということで、ぜひともご理解をいただきたいということと、それを実施に落とししていく部分は、実施計画の部分と戦略プロジェクトという部分で謳い込んで取組んでまいりますので、それについても今後ご意見を賜っていきたいと思います。

今回は、基本構想の部分について150ページ、まだ全部手が入ってないものがここにありますが、4月1日以降公表させていただきますので、それについてもぜひ、こんな表現おかしいではないか、ここはこうだとか、もう少しこういう具体を表現したほうがいいのか、というようなこともあろうかと思えます。ぜひそれについても、ご意見そしてご指摘を頂戴したいと思います。それを柔軟に受け止めさせていただいた上で、今度はこの実際の部分の実施計画そしてプロジェクトというものに落とし込んでいくことをやりたいと思います。

具体的な部分でのご指摘でも、例えば医療対策の充実というお話しもいただきました。これは第1回の地域別懇談会でも団体別の懇談会でも、この第2回の懇談会でも、どこへ行ってもいただくご指摘、そして厳しい認識を皆さん市民がお持ちで、今後どうするんだ、これから高齢化社会迎える中で医療の体制どうするんだと、悲鳴にも似た話を承っております。

これもこうした皆さんと私ども幹部職員一堂に会して対面をする中でいただくということは、非常に意味がありますし、私どももこうした部分についてもまちをあげて取り組んでいかなければいけない課題だと認識しております。

一方において、課題を解決していくのに障害になっていることも、私どもからすればひとつの説明の機会として、ひとつのエクスキューズ(言い訳)になってしまいますけれども、あえ

件名	第2回地域別懇談会【相模が丘地域】	頁	11/12
日時	平成22年3月24日(水) 19:00~21:00	場所	相模が丘コミュニティセンター

てさせていただきたいと思っています。

例えば医療の関係、相武台でもその話をいたしました、その中で奥さんが腹痛の急な発作を起こされて救急車で運ばれたのが、綾瀬の厚生病院だった。そこじゃあ胆石の疑いありということで指摘を受けたが、治療受けられなくて他に行ったと、糞の役にも立たないと怒られました。二次救急の病院が市内2箇所しかありません。相模台病院と相武台病院。ご存知のとおりひばりが丘病院も無くなりましたし、座間の中央病院はかしわ台へ移転してしまい、座間の厚生病院は療養型の病床ということで、今、中丸地区にあります。なんで病院がないのかと怒られるわけです。私らも病院が欲しいです。病院誘致したいです。

今、ここで副市長とこんな記事を読んでいましたが、つい最近の全国市長会の「市政」という会報に、地域医療の中核的役割を担う新たな病院の誘致ということで、愛川町の事例が出ています。

国の政策がここ数年間で大きく変わっており、実際に産科医療、周産期医療、小児科医療などのお医者さんが足りないということがあちこちで出ていて、それが原因で地方の市立病院が稼働できないといった事例が、近隣でも大和であったわけです。こうしたなかで、旧小泉政権における医療改革というものがひとつのきっかけ、また訴訟の社会というものがひとつの大きな要因となって、お医者さんたちがリスクを伴うような医療の現場から離れるということと、勤務医として救急救命の担当になることによってリスクを背負うことを嫌がることから、この救急医療というものが本当に希薄になって、受け手がいなくなってしまう現状があります。

一方において、国は国でこの少子化社会、特に高齢化社会、介護を必要とする社会で医療のニーズが高まる中で、できるだけ負担を軽減させたいということから、医療資源に対して非常に厳しい枠付けをしてきている。この座間を含めた、座間、綾瀬、海老名、大和、川をまたいだ厚木、愛川、清川というのは、国が示す広域医療圏という1つの括りになっており、この中で病床数はいくつです、全国平均で考えたときにはこの医療圏は病床過剰なんです、という括りになってしまっている。この括りを外してもらわなければ、新たな医療機関の誘致ができません。私たちが欲しいと思っても誘致ができない。

まず誘致をするためには病床過剰地域とおっしゃるけれど、海老名や厚木はよい、大和は市立病院も持っている、でも私ども座間は5つあった病院のうち3つ無くなってしまっている、座間市内だけを取り上げれば医療過疎だ、ということ国で理解をしてもらい、全体の枠の中ではなく、点在しているものを近くに持ってくることはできないのか、ということ認めてもらわなければ、誘致もできない現状です。これも機会がなければ生の声で訴えかけることができない。

ですから、私は市長としての立場でこれはおかしいということ国にも県にも要望させてもらっています。議会の中でもこうしたことについては意見書として出していただき、撤廃していただきたいという要望も出しております。そういった努力をしながら、一方においては、なんとかこちらに出てきていただけたところはないか、あるのであれば、それをひとつの根拠として、こういうところもあるからと、医療機関の誘致をしていきたい、だから地権者の皆さんにお願いをしていきたい。さらには、そういう可能性があるから過剰地域の指定を外していた

件名	第2回地域別懇談会【相模が丘地域】	頁	12/12
日時	平成22年3月24日(水) 19:00~21:00	場所	相模が丘コミュニティセンター

だきたい。そのような政治的な部分もつなげていかなければならないわけです。

ですから、このような部分で私どもが市民の皆さんの切実なニーズを受け止めるためにも、一連の懇談会という部分で、これが足りないというお叱りをちょうだいしていますが、非常に大切なことだと思っております。そのような部分を、今回は一連の総合計画の策定に向けての取組みの中で、多面的な意見を募集しております。直接生の声でいただく部分、文章でいただく部分、一言メッセージでいただく部分、色んな角度からいただいたものについて、この基本構想の中に落とし込み、ここまで整理させていただきました。以降についても、今日いただいたものも全部含めて具体的な部分の策定に向けて鋭意参考にさせていただきながら、皆さんのお気持ちというものを大切にしながら取組んでまいりたいと思います。

いちいちおっしゃっていただいたことはごもっともなことばかりでございまして、あととにかく人にいっぱい住んでいただける座間市にしなければいけない、都市的土地利用が市街化区域の中で92%であっても、もっと高度に利用すればもっと住んでいただける可能性もある。

さらには、過日お話しした日産座間の件ではないですが、過去の自動車組み立て工場は無くなりましたが、今はこれから先将来に向けて、電気自動車のリチウムイオン電池のプラントの開発場所、そして全世界に向けての発信の拠点、という高度な部分での利用もやっていただいていますし、狭い土地ではあるけれども高度に有効に、お互いに活用するようにしながら、先ほどおっしゃっていただいたように、日本経済新聞のランキングで上位に入ったよ、座間はこんないいところあるじゃないかというような思い、ものを1つでも導けるようなまちづくりをしてまいりたいと思います。そのひとつの指針として、この総合計画を位置づけて取組んでまいりたいと思いますので、どうかご理解をいただき、またこれからのご指導ご鞭撻ご協力を賜りたいと思います。

今日はちょうどこれで時間となりました。本当に私にとって非常に大事な相模が丘でございまして、当然十分に認識をしながら取組を進めてまいりますのでどうかよろしく願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

【市役所】

それでは、本日は貴重なお時間とご意見いただきまして誠にありがとうございました。これをもちまして第2回地域別懇談会を閉じさせていただきたいというふうに思っております。ありがとうございました。